



# 第 11 回 文京区医師会学術集会 抄録

平成 25 年 2 月 23 日 (土)

於 文京区医師会館 1 F ホール

## 一般演題 ( I )

座長：千駄木あおば歯科 谷田部 優  
清家クリニック 清家 正弘

### 1. 「口腔乾燥症状により早期に発見された関節リウマチ及び強皮症患者の一症例」

講道館ビル歯科・口腔外科：○三村綾子 小野祐三子 河野章江 森田雅之 高橋雄三

口腔領域は全身の一部であり、口腔と全身の関連性は思いのほか多い。口腔粘膜に現れる病変としても、口腔のみに起因するもの以外に、皮膚や多部位粘膜と関連する病変、全身性疾患と関連する病変が挙げられる。

今回紹介する患者も、当院に口腔乾燥（ドライマウス）を主訴として来院し、その後の検査により全身性疾患である強皮症、関節リウマチ、シェーグレン症候群疑いの発見に至った。口腔乾燥の原因としては、唾液腺自体の機能障害によるもの、神経性あるいは薬物性のもの、全身性疾患あるいは代謝性のものに大きく分類される。口腔乾燥症の診断法、病態への対応、患者に起きる口腔粘膜の具体的な症状とともに、私たちが担う継続的な口腔ケアについて述べたい。

### 2. 「アンチドーピング 第 68 回 国体 東京開催に向けて」

高島堂薬局：海老原 寛人

今年、第 68 回国民体育大会（通称：国体）が東京で開催されます。この大会の成功に向けて医療関係者も各方面から協力し取り組む必要があります。特に国体選手全員が受けるドーピング検査では選手にその気はなくても、ドーピング違反と判断され、その結果、重い罰則が科せられる「うっかりドーピング」が起こる可能性があります。

今回は『ドーピング防止ガイドブック』を基に、「うっかりドーピング」を起こさないよう、気を付けるべき薬物と使用可能な薬物の数例を報告させていただきます。今後も選手が全力で競技に挑めるよう、正しいドーピングの知識を身に着けるよう心掛けて下さい。

### 3. 「駒込かせだクリニックにおける言語聴覚療法の実態調査」

駒込かせだクリニック： 雨宮 桐子

【はじめに】当院の言語聴覚療法（以下S T）における外来通院・訪問リハビリテーションの現状を把握し、今回、介護度について調査・検討した。 【対象と方法】2012年1月～2013年1月までに当院でS Tを行った85例(男性45例, 女性40例, 平均年齢71歳)につき、原疾患およびその後遺症・訓練期間・介護等を調査した。 【結果】失語症30例、構音障害17例、認知症21例、高次脳機能障害4例、嚥下障害8例、音声障害3例、その他2例であった。訓練期間は、失語症で約2年2ヶ月、認知症で約2年であった。要支援・介護認定を受けている者は45%で、そのうち全体の72%、失語症患者にいたっては81%がデイサービスを利用していた。 【考察】介護保険の要介護認定を受けている場合は、原則的に医療保険よりも介護保険が優先になる。また、数少ないS T外来を行っている医療機関の多くは、脳血管疾患等の後遺症180日以内の患者を対象としている。現在S Tの約10%（約1900人）が介護の現場に所属しているが、退院後のコミュニケーション障害に対するリハビリテーションの受け皿が少ないことが明らかとなった。

### 4. 「ADLが自立した認知症夫婦への関わり」

龍岡訪問看護ステーション： 森田 敬子

ADLが自立しており、まだら認知症なので一見認知症であると思えない人の場合、家族は第三者より認知症なのだとは以外と気づきにくい。特に息子や娘は自分の親が認知症だと認めたくないという気持ちがどこかにある。

認知症がある夫婦二人暮らしのお宅に訪問看護が関わることで、家族だけでなく、ヘルパーさんやケアマネージャーさんからあらためて訪問看護の必要性、重要性を感じたと言われた事例である。

### 5. 「歯科医が取り組むプロバイオティクス-メタボリックドミノを倒さないために」

昭和大学口腔リハビリテーション講座・和久本歯科医院： 和久本 雅彦

人間は、体内の微生物バランスが崩れると病気になると言われる。体内環境を整えるため、乳酸菌に代表される善玉菌（プロバイオティクス）を食品から摂取することで、病気の発生を未然に抑えることができると考えられる。今回紹介するプロバイオティクスの一つである *L. reuteri* は、母乳に含まれ、新生児の腸内細菌叢を最初に形成する菌と言われている。ヒト由来の菌であるため、ヒトとともに進化をし、ヒトと共生をしていける乳酸菌である。*L. reuteri* は悪玉菌が生息する環境下において、天然の抗菌物質であるロイテリンを産生し、その発育抑制を行う。口腔では虫歯や歯周病の予防効果が期待される。それによって生活習慣病の発生を予防し、メタボリックドミノの倒壊をその最上流で食い止める効果が期待出来る。*L. reuteri* は幼児から高齢者まで安全に摂取できる事から今後広く普及ができる技術であると考えられる。今回は歯科における細菌療法の実際を紹介する。

## 一般演題（Ⅱ）

座長： 竹内調剤薬局 新井 悟  
本郷内科クリニック 山崎 瑞樹

### 6. 「お薬手帳を活用した医療連携」

スエヤス調剤薬局： 井上 登

患者に自分も医療者と一緒に治療に参加しているという自覚を持って頂くことを目標とし、お薬手帳を介した医師・薬剤師・患者間での連携を始めました。

主に医師からは治療レジメンや既往歴、必要となる患者背景等に関して、薬剤師からは指導内容や患者の疑問や主張に関して記入し、患者からは自覚症状や日常で疑問に感じる事などについて記録するよう指導しております。

今回はがん感染症センター都立駒込病院大腸外科・化学療法科の患者を対象としたお薬手帳活用について発表させていただきます。具体例として大腸がん治療中患者のハンドフットシンドローム、血圧管理についてご紹介致します。

### 7. 「分子栄養学的観点から見た鉄欠乏患者へのアプローチ」

トータルライフクリニック本郷内科： 長屋 直樹

分子（整合）栄養学とは、ノーベル賞を2回受賞したアメリカの生化学者ライナス・ポーリングに起源を見る人体の状態を分子レベルで分析、理解して、不足している栄養素を至適量補給することにより、細胞の活動性を回復し、全体として自然治癒力の強化をもたらし、健康の回復や病の予防を図るという栄養学的なアプローチである。今回、月経前症候群に悩む4名の30代～40代の女性に対して、貯蔵鉄の指標となるフェリチンを評価し、貯蔵鉄の不足に対して、鉄を補充し、VAS scoreによる評価で症状が改善されたので報告する。また、在宅療養中の98歳男性の慢性呼吸不全患者の鉄欠乏を評価し、鉄の補充によるフェリチン値の改善により、繰り返す肺炎からの離脱を見たので報告する。

### 8. 「舌痛治療についての検討（過去7年間の 歯科口腔外科介入の現状）」

やまとむらデンタルクリニック 口腔外科・東京慈恵会医科大学 救急医学講座： 太田 修司

いわゆる舌痛症は、視診や触診などにより「器質的変化を認められないにもかかわらず舌の痛みを訴える病態の総称」と定義されて、本症は古くから精神的因子が指摘され、神経症やうつ病と関連しているといわれる。

しかしながら、最近ではドライマウスや口腔内細菌による炎症性変化を舌痛症の原因する報告もあり、口腔内の衛生状態の改善や消炎療法による効果も報告されており、これらの報告を基にすれば、舌痛を訴える患者のすべてがいわゆる「舌痛症」の概念に当てはまることにはならず、患者の病態にあった対応が必要と考える。

今回、歯科施設を訪れた舌痛症状を呈する患者について、器質的原因の関連性を裏付ける目的で、その病態ならびに治療状況の集計・分析を後ろ向きに検討したので考察を加え報告する。

## 9. 「骨粗鬆症の薬物治療 BP 関連顎骨壊死 (BRONJ)」

奥山整形外科：奥山 英二

現在、骨粗鬆症の治療薬は約 20 種類以上あり、大きく 3 つに分類される。

1. 腸管からのカルシウム吸収増加作用
  - ・カルシウム製剤
  - ・活性型ビタミンD3製剤
2. 骨吸収抑制作用（破骨細胞の抑制）
  - ・カルシトニン製剤
  - ・エストロゲン製剤（女性ホルモン）
  - ・SERM製剤
  - ・ビスフォスフォネート製剤（BP）
3. 骨形成促進作用（骨芽細胞の働き）
  - ・ビタミンK2製剤
  - ・副甲状腺ホルモン（PTH）製剤

特に近年発売されたPTH製剤は強い骨形成促進作用を有し、BP効果不十分な例に対しても効果が期待できる。

最近、BP長期使用による顎骨壊死の問題が起こっている。

不明な点が多くあるが、10万人に1人の報告がある。

特に抜歯、インプラント等の侵襲的操作後に発生する頻度が高い。

平成 25 年 2 月 23 日 文京区医師会 学術集会 抄録

主催：文京区医師会

共催：文京区歯科医師会・文京区薬剤師会・訪問看護ステーション連絡会